

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	2026年1月5日 ~ 2026年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	2025年12月27日 ~ 2025年12月27日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月1日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安全・安心な支援体制 法定基準を満たした手厚い職員配置を行い、安全安心な支援体制を確立しています。	毎日の情報共有と振り返りの徹底 単に職員を配置するだけでなく、毎日の朝礼・終礼を欠かさず行い、その日の役割分担や児童の微細な体調変化を全職員で共有しています。	【職員の専門性向上とスキルの標準化】外部研修への参加や事業所内でのケース会議をさらに充実させ、職員ごとの支援スキルのばらつきを無くします。
2	多様な活動プログラム 支援プログラムにおいては、活動が固定化しないよう「季節行事」「創作活動」「運動」など多様なメニューを取り入れ、子どもたちが飽きずに楽しく通える環境を提供しています。	メリハリと構造化 集団レクリエーションと個別の活動時間を明確に分け、生活リズムにメリハリをつけています。また、絵カード等を用いた「視覚的な構造化」を取り入れ、見通しを持って活動に参加できるよう配慮しています。	【地域との連携強化】地域住民との交流を更に深めていくため地域での行事に参加していく。
3	積極的な情報発信と透明性 HPやSNS（ブログ・Instagram等）を活用し、活動の様子を写真付きで定期的に発信することで、開かれた事業所運営を実現しています。	分かりやすさと安心感の提供 発信にあたっては専門用語を避け、親しみやすく分かりやすい言葉選びを心がけています。写真掲載の際はプライバシーに十分配慮（同意確認・加工等）した上で、お子様の生き生きとした表情や事業所の温かい雰囲気が伝わるよう工夫し、ご家庭での安心感につなげています。	【双方のコミュニケーションとニーズの反映】一方的な発信にとどまらず、保護者様の「知りたい情報」と事業所の「伝えたい想い」が合致するよう、発信内容のブラッシュアップを継続します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学前機関との連携不足（支援の連続性） 学校との連携は取られていますが、利用開始前の「保育所・幼稚園等」との情報共有が未実施です。成育歴や過去の集団生活での様子を、現在の支援に十分に引き継げていない点	【保護者からの詳細なヒアリングとアセスメントの強化】直接的な引き継ぎができない分、利用契約時や初期の面談にて、保護者様から成育歴や過去の様子（得意・不得意、集団での行動など）を時間をかけて丁寧に聞き取っています。	【移行支援ルールの策定と実施】新規利用児について、保護者の同意を得た上で旧在籍園（保育所等）への聞き取りや訪問を行うフローを確立します。
2	地域中核センターとの連携不足（専門性の向上） 「地域の児童発達支援センター」との連携体制がまだ構築できていません。困難事例への対応において、外部機関からの客観的な助言（スーパーバイズ）を受ける機会が不足している点	【自立支援協議会への参加と社内連携の活用】地域の「自立支援協議会（こども部会）」へ毎月参加し、地域の福祉情報の収集や横の繋がりの確保に努めています。	【スーパーバイズ体制の構築】地域の児童発達支援センターへ積極的に働きかけ、困難事例への助言（スーパーバイズ）を定期的に受けられる関係性を構築します。
3			